

平成20年度高等学校入学者選抜審議会第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会開催要項

宮城県教育委員会

1 日 時 平成20年10月23日(木) 午前10時から正午まで

2 会 場 県庁18階 1801会議室

3 次 第

(1) 開 会

(2) 議 事

イ 第2回小委員会審議内容について

ロ 現行公立高校入試制度に関する調査結果について

ハ 改善の方向性について

ニ 第2回入学者選抜審議会への報告事項について

ホ その他

(3) あいさつ

(4) 閉 会

平成20年度入学者選抜審議会第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会 名簿

(小委員会)

No.	委嘱・任命	氏名	現職	備考
1	委嘱	菅野 仁	宮城教育大学教育学部教授	
2	委嘱	小平 英俊	宮城県PTA連合会副会長	
3	委嘱	鹿野 良子	仙台市立加茂中学校長	
4	任命	齋藤 公子	宮城県石巻西高等学校長	
5	委嘱	榎木 喜一	気仙沼市教育委員会学校教育課長	
6	委嘱	木島美智子	塩竈市立第三中学校教頭	欠席
7	任命	山内 明樹	宮城野高等学校教頭	
8	任命	小畑 研二	仙台教育事務所次長	

※1～4 審議会委員 5～8 専門委員

(教育庁)

教育企画室	教育改革班室長補佐兼企画員	海原 孝
義務教育課	指導班副参事	桂島 晃
	〃 課長補佐	穴戸 健悦
高校教育課	課長	高橋 仁
	副参事兼課長補佐	村上 靖
	教育指導班課長補佐	高橋 義典
	教育指導班主幹	齋藤 順子
	〃 主幹	岡 達三

平成20年度高等学校入学者選抜審議会
第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

資料

目次

1	現行高等学校入学者選抜の主な課題の整理		
	(1) 推薦入試の在り方について P	1
	(2) 一般入試の在り方について P	2
	(3) 選抜資料としての調査書の活用について P	3
	(4) 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について P	4
2	現行公立高校入試制度に関する調査の結果について P	5
3	「中間まとめ」の柱立てについて P	9

1 現行高等学校入学者選抜の主な課題の整理

(1) 推薦入試の在り方について

中学校長推薦	指摘されている課題・意見や分析	第2回小委員会での主な意見	まとめ
<p>◆校長推薦が得られなければならない受検できず、受検機会に差がある。</p> <p>◆推薦希望者が多い一方、出願資格・「本校の期待する生徒像」が他県に比べ漠然としており、中学校における校内選考やその結果の生徒・保護者説明が難しい。</p> <p>◆校長推薦であっても結果的に不合格の場合も多く、事後指導が大変である。</p> <p>⇒中学校から11つの高校へ推薦できる人数の制限撤廃による大幅な出願者増は起こっていない。</p> <p>⇒推薦入試を巡る指導に中学校は膨大なエネルギーを要している。</p>	<p>◆推薦合格者の割合が高くなってきていることが、推薦入試を学力検査を受けず早期に合格できる手段とみられる。考えや、推薦合格後の学習意欲の低下等、中学校教育に影響を与えている。</p> <p>⇒全日制の95.2%が推薦枠を上限で設定し、推薦枠は約33%、推薦合格者の割合は約29～30%のばり、全国的に見ても割合は高い。</p> <p>◆調査書の評定だけで選抜され、推薦入試本来の趣旨である多様な能力・特性の評価が十分でないというように思われる。</p> <p>⇒ほとんどの高校が、受検生を多面的に評価するため面接・作文等を実施しているが、外部からは選抜が不透明に見える。</p> <p>◆推薦入試を論じるうえで、推薦合格者の高校入学後の検証が必要である。</p> <p>◆推薦入学者には大学進学を指す傾向がある。</p> <p>⇒推薦入学者が推薦で大学進学を指す傾向は認められるが、高校入学後の学習・生活状況、進路状況からみて、推薦入試は一定の機能を維持している。</p>	<p>○過去の合格実績も参考し推薦するが、その線引きが難しい。</p> <p>○志望動機、成績、生活、高校の求める生徒像など校内選考基準を明確にし生徒・保護者に示すが、選考が難しい場面もある。</p> <p>○選抜要項の出願資格が明確でないため、生徒に示しにくい。</p> <p>○校内選考を通らなかつた場合、推薦不合格だった場合の生徒のダメージは大きく、苦慮する。</p> <p>○小規模校ではほとんどの生徒が推薦され、合格するといふ場合もあり、大規模校との違いがある。</p> <p>○中学校・高校の2段階選抜になっていることは不可解であり、200校を超える中学校がそれぞれに校内選考をしているということや学校規模での違いがあることは、公平さにも疑問がある。</p> <p>○高校進学率の上昇、競争緩和を旨とした調査書重視による推薦導入という趣旨、定員割れのある地域状況等を踏まえ、高校はふるい落としの選び取りで育つていくことを考えるべきである。</p> <p>○推薦入試も一般入試と同じ尺度となつてきている点、推薦入試の改善すべき点である。</p> <p>○推薦入試の一定の成果を考えると、中学校長推薦から自己推薦にすればよいという単純な問題ではない。</p>	<p>○推薦入試制度には一定の成果が認められるものの、現状では中学校教育に及ぼしている影響という点で課題も多い。特に、中学校長推薦を要件とすること、推薦の割合、選抜方法について課題がある。</p>
<p>割合</p>			
<p>選抜方法</p>			
<p>推薦入学者の状況</p>			

◆指摘されている課題・意見 ⇒分析

(2) 一般入試の在り方について

論点	指摘されている課題・意見や分析	第2回小委員会での主な意見	まとめ
<p>学力検査問題及び選抜方法</p>	<p>◆問題全体の質と量が適正なのか、また、学校選抜問題が必要なのか。 ◆学力検査点と調査書点の相関図表による選抜が最良の方法といえるか。 ◆学校・学科の特色に応じ、学校裁量の拡大が必要である。 ⇒受検生の多様な能力・適性をより正しく捉えらるため、5教科のうち理解度の差が大きいき英語、数学で、学校選抜問題を導入した。その結果、選抜資料としての精度は基本的にアップしたが、一部それに当てはまらない学校もみられる。 ⇒ある時期不登校に陥った生徒などで、相関図表による選抜が足かせになるより、学校・学科の特色を生かす手段として配点が可能な学校もある。</p>	<p>○学校選抜問題のAとBで平均点に差があるのは問題。科目間の平均点が揃った共通問題として出題する方が適切である。 ○どの段階の能力も的確に見取ることのできるような共通問題というのは、実際は難しい。 ○受検生は学校選抜問題についてあまり話題にしていない。 ○学力検査点と調査書点の段階が大きく異なる場合は、個別に慎重審議している。</p>	<p>○学校選抜問題導入の目的は、一定程度達成されているもの、問題全体の質と量からみて学校選抜問題を今後も継続する必要性があるか検討が必要である。 ○学力検査点と調査書点を総合的にみることはよいとして、学校・学科の特徴に応じた学力検査点と調査書点の重み付けの学校裁量幅について検討が必要である。</p>

(3) 選抜資料としての調査書の活用について

論点	指摘されている課題・意見や分析	第2回小委員会での主な意見	まとめ
<p>評定</p>	<p>◆絶対評価の基準性、客観性が保たれているのか疑問である。 ⇒県全体としては、絶対評価移行後も5段階の評定割合に極端な変化はみられない。</p>	<p>○絶対評価は中学校間や評価者間で尺度が一致しているのか疑問だ。 ○絶対評価になったこともあり、観点別評価も大切にしたい。</p>	<p>○絶対評価の信頼性の確保が大切である。</p>
<p>記載事項とそ の活用</p>	<p>◆評定以外の項目がどの程度活用されているか不透明で、調査書作成が煩雑だ。 ⇒各高校では、評定以外のマルAその他の項目も十分活用している。 ⇒中学校側からみると、評定以外の調査書の項目の活用状況が見えにくく、作成の負担感がある。</p>	<p>○高校では、マルAその他すべての項目を、受検生のよさをみる資料として活用している。 ○可否結果から、進学校では調査書の記載をあまり見えないという印象がある。中学校としては、観点別評価や行動の記録をもっと重視してほしい。 ○マルAは中学校として積極的によい生徒を評価できる有効な項目ではないか。 ○マルAは活用されていると理解しているものの、8%という枠、4つの観点を同列に扱う点で、誰にマルAをつけるのか難しい。 ○割合ではなく、県として示した基準に該当するものをマルAとすることの方が公平性が保てる。 ○多様な種目や活動があり、マルAの基準を一律に示すのは難しい。 ○中学校現場では調査記載事項の簡素化を求め声も多い。 ○受検生の特長を見る十分見取るために、高校にとつて調査書の記載事項は重要である。</p>	<p>○調査書の記載事項については、受検生を多面的に評価し選抜するという観点が重要であるが、簡素化をどのようにするか課題である。</p>

(4) 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について

<p>論点</p>	<p>指摘されている課題・意見や分析</p>	<p>第2回小委員会での主な意見</p>	<p>まとめ</p>
<p>受検機会</p>	<p>◆第2次募集を除き一般入試1回でよい。 ◆受検機会の複数化を図るべきである。 ⇒入試の回数により、それぞれに異なるメリット・デメリットがある。</p>	<p>○推薦入試等改善すべきところを改善し、受検機会は現在の3回を維持すべきである。 ○内容の改善だけで済むことか、枠組みそのものの見直しまで踏み込むか、更に検討が必要である。</p>	<p>○受検機会については、何のため、誰のための入試改善を目指すのかという理念を明確にして、方法・時期等も含め慎重に検討する必要がある。</p>
<p>日程</p>	<p>◆日程が早く、期間も長い。 ⇒3回の入試を設定している他県と比べ、極端に日程が早い、期間が長いとは言えない。</p>		

2 現行公立高校入試制度に関する調査の結果について

平成20年10月 集計

1 一般入試について

中学校：224校中の%値，高等学校：84校中の%値

Q1 各教科の学力検査問題の構成について、適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 現状の質・量でよい
- イ 量を減らし，思考力・表現力を問う
- ウ 基礎基本問題を中心として量を増やす
- エ その他

	中学校	高等学校
ア	73.7	76.2
イ	8.0	1.2
ウ	15.6	15.5
エ	2.7	7.4

Q2 1教科あたりの検査時間について、最も適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 50分（現状）
- イ 45分
- ウ 40分以下
- エ 55分以上

	中学校	高等学校
ア	96.4	95.2
イ	2.2	3.6
ウ	0.5	0.0
エ	0.9	1.2

Q3 数学と英語で現在実施している学校選択問題についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続して実施すべき
- イ 不要
- ウ 改善すべき

	中学校	高等学校
ア	52.9	41.7
イ	42.6	51.2
ウ	4.5	7.1

Q3-2 Q3で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

Q4 調査書点と学力検査点をそれぞれ10段階に区分して作成する相関図を使用した現在の選抜方法について、どのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現状を継続すべき
- イ 改善すべき

	中学校	高等学校
ア	71.0	51.8
イ	29.0	48.2

Q4-2 Q4で「イ」と回答の場合、改善の方向はどれが適切と思いますか。次の中から選んでください。
(複数回答可)

- ア 調査書と学力検査の割合について6：4～4：6まで学校の裁量で幅を持たせる
- イ 調査書と学力検査の割合について9：1～1：9まで学校の裁量で幅を持たせる
- ウ 調査書点に県教育委員会の算式による補正を加える
- エ 学力点と調査書点の合算による選抜
- オ 学力点のみでの選抜も一部可能とする
- カ 調査書点のみでの選抜も一部可能とする

	中学校	高等学校
ア	34.5	22.1
イ	27.4	23.5
ウ	8.3	7.4
エ	14.3	23.5
オ	11.9	14.7
カ	3.6	8.8

2 推薦入試について

Q5 現行の推薦入試についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 特に問題なし
- イ デメリットもあるがメリットの方が大きい
- ウ メリットもあるがデメリットの方が大きい

	中学校	高等学校
ア	6.3	19.1
イ	14.0	28.6
ウ	79.7	52.4

Q6 現行の推薦入試の中で、普通科の推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の30%以内が適当
- イ 10%程度まで減らすべき
- ウ 普通科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

	中学校	高等学校
ア	15.7	30.1
イ	13.0	13.3
ウ	66.8	45.8
エ	4.5	10.8

Q7 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科を除く専門学科並びに総合学科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の40%以内が適当
- イ 20%程度まで減らすべき
- ウ 専門学科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

	中学校	高等学校
ア	33.0	53.6
イ	25.3	13.1
ウ	30.8	10.7
エ	10.9	22.6

Q8 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の60%以内が適当
- イ 30%程度まで減らすべき
- ウ 体育・美術科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

	中学校	高等学校
ア	26.1	48.8
イ	34.7	17.1
ウ	25.2	11.0
エ	14.0	23.2

Q9 推薦入試の選考資料として、調査書・面接・小論文・作文、実技等に加えるべきものがあると思えばどのようなものがあると思いますか。御意見を記入してください。

Q10 現行の推薦入試制度全体について、どのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続すべき
- イ 廃止すべき
- ウ 改善すべき

	中学校	高等学校
ア	11.7	32.2
イ	41.0	17.2
ウ	47.3	50.6

Q10-2 Q10の回答理由にあてはまるものを次の中から選んでください。(複数回答可)

- ア 中学校生活を評価できるから
- イ 意欲の高い生徒が選抜されるから
- ウ ペーパーテスト以外の力を評価できるから
- エ 推薦の基準が不明瞭であるから
- オ 中学校の授業時間確保の障害になるから
- カ 事務手続が非常に煩雑であるから
- キ 早期合格の手段となるから
- ク 学力向上の障害となるから
- ケ その他

	中学校	高等学校
ア	6.3	11.8
イ	4.9	15.3
ウ	5.9	10.8
エ	31.4	18.2
オ	2.6	4.4
カ	16.4	7.4
キ	12.3	8.9
ク	14.6	16.3
ケ	5.5	6.9

506 203

Q10-3 Q10で「ウ」と回答した方は、どのような改善の方向が適当と考えますか。次の中から2つ選んでください。

- ア 校長推薦を必要としない自己推薦方式
- イ 文化・運動部等で明確な実績のある者のみを推薦する方式
- ウ 推薦に加え3教科程度の学力検査を課す方式
- エ 現行の推薦入試の対象を専門学科のみに限定する
- オ 新たな特色のある選抜方式を導入する
- カ その他

	中学校	高等学校
ア	14.0	3.2
イ	10.7	14.5
ウ	23.6	27.4
エ	34.8	33.9
オ	10.7	8.1
カ	6.2	12.9

178 62

3 第二次募集について

Q11 第二次募集は必要だと考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続すべき
- イ 廃止すべき
- ウ 改善すべき

	中学校	高等学校
ア	96.0	89.3
イ	1.8	1.2
ウ	2.2	9.5

Q11-2 Q11で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

Q12 第二次募集の選抜資料として何が適当だと思いますか。次の中から選んでください。

- ア 調査書のみ
- イ 調査書+面接
- ウ 調査書+学力検査
- エ 調査書+面接+学力検査
- オ その他

	中学校	高等学校
ア	1.8	0.0
イ	17.1	9.6
ウ	14.4	15.7
エ	64.0	68.7
オ	2.7	6.0

4 調査書について

Q13 現在使用している調査書の記載事項についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現状を継続すべき
- イ 改善すべき

	中学校	高等学校
ア	32.0	44.0
イ	68.0	56.0

Q13-2 Q13で「イ」の回答の場合、次のア～キのうち調査書の記載事項として特に改善が必要と考えるものはどれですか。(複数回答可)

また、そのうち()内の改善の方向はどれがよいか、①～③の中から選んでください。

- ア 観点別学習状況

	中学校	高等学校
ア	16.4	25.8
①廃止	32	10
②簡略化	24	18
③詳述化	2	3

- イ 各教科の評定

イ	3.8	6.0
①廃止	3	0
②簡略化	10	4
③詳述化	0	5

- ウ 選択教科の評定

ウ	30.8	21.2
①廃止	95	16
②簡略化	10	12
③詳述化	2	1

- エ マルA特記事項

エ	22.3	10.6
①廃止	36	3
②簡略化	37	1
③詳述化	3	7

- オ 行動の記録

オ	13.9	19.2
①廃止	7	0
②簡略化	35	6
③詳述化	7	15

- カ 欠席状況

カ	5.1	14.6
①廃止	3	0
②簡略化	13	2
③詳述化	2	11

- キ その他

キ	7.8	2.7
---	-----	-----

Q14 現在の調査書「評定」の活用の仕方をどのようにすればよいと考えますか。次の中から選んでください。

- ア 1～3学年分(現行)
- イ 3学年分のみ
- ウ 2, 3学年分のみ
- エ その他

	中学校	高等学校
ア	91.0	96.4
イ	3.1	0.0
ウ	5.4	1.2
エ	0.5	2.4

5 入試の実施時期と実施回数について

Q15 現在実施している推薦入試・一般入試・第二次募集の3回の選抜の回数について、どう思いますか。次の中から選んでください。

- ア 現行のままで3回が適当
- イ 推薦入試の形態を変えて3回必要
- ウ 一般と二次募集の2回が適当
- エ 一般のみの1回が適当

	中学校	高等学校
ア	31.4	48.2
イ	22.0	21.7
ウ	45.7	28.9
エ	0.9	1.2

Q16 3回の入試を行うとした場合、1回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

- ア 1月末(現行)
- イ 2月上旬
- ウ 2月下旬
- エ その他

	中学校	高等学校
ア	70.3	81.9
イ	18.3	13.3
ウ	10.5	1.2
エ	0.9	3.6

Q16-2 2回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

- ア 3月上旬（現行）
- イ 2月下旬
- ウ 3月中旬
- エ その他

	中学校	高等学校
ア	83.6	83.1
イ	5.9	10.8
ウ	10.0	4.8
エ	0.5	1.2

Q16-3 3回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

- ア 3月17～20日（現行）
- イ 3月21～24日
- ウ 3月25～28日
- エ 3月29～31日
- オ その他

	中学校	高等学校
ア	87.7	89.2
イ	8.6	7.2
ウ	2.7	0.0
エ	0.5	0.0
オ	0.5	3.6

6 高校入試全般について

Q17 高校入試の改善にあたって、最も重視すべきことはどのような点だと考えますか。具体的に記述してください。

3 「中間まとめ」の柱立て

1 宮城県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題について

(1) 入学者選抜制度の変遷及び現行入学者選抜制度の概要

(2) 現行入学者選抜制度の課題

- イ 推薦入試の在り方
- ロ 一般入試の在り方
- ハ 選抜資料としての調査書の活用
- ニ 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会

2 入学者選抜制度に関する調査の結果について

(1) 現行公立高校入試制度に関する調査

(2) 県民意識調査

3 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

(1) 改善に向けての基本的な考え方

(2) 検討の経過及び改善の方向性

- イ 推薦入試の在り方
- ロ 一般入試の在り方
- ハ 選抜資料としての調査書の活用
- ニ 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会
- ホ その他